

桜蔭俳話会 六月句会 (第三三六回)

平成二十七年六月二十八日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

5点	庖丁の菜屑の彩や夏は来ぬ	幸
4点③	いつまでのボーイソプラノ更衣	守
3点①	故郷の空き家の数や蟬の穴	守
3点①	水無月や手の甲に書く英単語	秀一
3点	夕空を一気に掃けり夏燕	才美
3点	新婚の表札小さし花柘榴	秀一
2点①	振れ花らせんの先の宇宙かな	ツル子
2点	ばんばんと叩きて干せり藍浴衣	友子
2点	路地裏の踏まれし枇杷の種ころり	ツル子
2点	燕の子遂に孵らず雨の宿	邦子
2点	パン種のふくらむ時間梅雨の月	守
1点①	なござりの鉢植えの木に梅雨の雨	眞壽
1点①	紫陽花を掠め着地の痩せ雀	明美
1点①	白あぢさゐ少年Aの黒き影	明美
1点	よその子のたちまち育ち今年竹	弘子
1点	どこよりか津波跡地の羽抜け鶏	守
1点	紫陽花や共に訪ねし友の亡き	友子
1点	花ねむや馬のまつ毛の長かりし	弘子
1点	著我の花一夜城址の土墨かな	幸
1点	五月晴翼となりし象の耳	才美
1点	団欒の声なき家の宵風鈴	明美
1点	風通す急ごしらへの夏座敷	弘子
1点	ひと気なき庫裡低空の夏燕	友子
1点	妹の手術に覚めし梅雨の入り	幸
1点	六月や物置小屋の要らぬもの	秀一

ヨハネ祭高きヒールの洒落娘	ヤエ子
梅干しを干す笹梅雨で邪魔となる	眞壽
青紫蘇や両手いつぱい栄養素	ツル子
虹の下今も洛中洛外囃	才美
人間に馴れてはならじ鴉の子	守
桑の実や疏開のころのこぬか雨	弘子
老が身の新たな浴衣夕の風	邦子
色づきし実梅ガーゼで拭ひけり	ヤエ子
梅雨晴間鴉の声の喧し	ヤエ子
贈られし薔薇の花束写真撮る	眞壽
緑蔭や赤子たちまち深眠り	才美
梅雨晴間ウオーキングの旗の列	明美
学園祭は若さの発露雲の峰	友子
ゆかた着の猿軍団や笑い声	幸
梅雨空にビルの屋上雛巢立つ	眞壽
健康をねがひし梅酒つくりをり	ツル子
事故あればテロ疑ひぬ梅雨茸	秀一
十葉の香に立つ土の散歩道	邦子
紫陽花が垣根飛び越え顔を出す	眞壽
谷戸風を海へ渡して遠郭公	才美
磨かれし「シャープ」の技術浮いて来い	明美

(不在投句 古野明美、稲葉幸)

「事務局からお知らせ」

○七月句会

・日時 七月二十六日(日)午後一時から
・会場 旭区民文化センター・サンハート

○八月は句会は休みです。

○次回の通信句会(夏季)の投句用葉書は、
七月末か八月初めに送付します。

※

軽やかに吹く口笛やさくららんぼ	友子
不揃いの枇杷の甘みや夜風あり	邦子
年輪のしゃくなげ散りて茶室かな	幸
青梅と塩のバランス不確定	ヤエ子
半化粧上三枚を化粧して	ツル子
三人の友入院の梅雨入かな	秀一
星空や門口までの宿ゆかた	弘子
小鳥来る柿の若葉の日毎伸ぶ	邦子
大鎌の草刈る音や風を切る	ヤエ子